

所属	国際交流研究科 国際交流専攻 修士課程	修了年度	平成 27 年度
氏名	魯 安琪	指導教員 (主査)	飛田 満

論文題目	中国における食品安全問題 —食の「チャイナショック」をめぐって—
------	-------------------------------------

本文概要	
<p>中国では残留農薬、違法添加物使用、重金属汚染等による有害有毒食品の横行が絶えない。農畜産業の現場では、生産性、安定性、効率性等を高める観点から、農薬、動物用医薬品、抗生物質等が幅広く使われ、その過剰使用や乱用による食肉・食用農産物の汚染が広範に見られる。とくに豚肉の肉赤身化剤（塩酸クレンブテロール）の使用は中毒症状をもたらすことが多く、深刻な社会問題となっている。食品安全に対する国民の不安には大きいものがある。そして中国国内はもちろん世界各国でも今や中国製食品の安全性に対する関心が高まっている。</p> <p>本論文では、中国における食品安全問題の現状を報告し、その問題発生の根本原因を明らかにする。さらに食のグローバル化にもともなって起こる国際的な食品安全問題と、中国における食品安全問題に対する取組と課題について論及する。</p> <p>第1章では、中国の食品安全問題の現状についてとくに4つの事例を挙げて報告する。2008年1月に、日本向けに輸出された殺虫剤入り冷凍餃子を食べた人が健康被害を受け、日中間の外交問題にまで発展した「中国製冷凍ギョーザによる食中毒事件」、同年9月に、中国国内で化学物質メラミンが混入された牛乳を原料にして粉ミルクが製造され、これを飲用した乳幼児が多数死傷した「メラミン混入粉ミルク事件」、さらに「地溝油」つまり下水油や残飯油といった廃油入り「毒インスタントラーメン事件」、及びネズミの肉を羊肉に偽装したり病死豚を販売したりといった「偽装肉事件」を紹介する。</p> <p>第2章では、なぜ中国で食品安全問題が多発するのかについて、中国の国情にも言及しつつ考察する。農村と都市の格差、(中国では生産者である農民と消費者である都市住民との間には深く暗い溝があるという)中国の戸籍制度にも由来する農村と都市の二元構造や、商業道徳の喪失、行政の腐敗と官僚の汚職による政府の監督管理体制の機能不全等の問題に、その原因を探る。「上に政策あれば下に対策あり」という言葉は、「決定事項について抜け道を考え出す」という意味に使われている。</p> <p>第3章では、食のグローバル化と「食の安全」をめぐる戦いについて論じる。中国は世界の製造業の中心、貿易大国などと言われるが、中国の食品安全の問題は国際的な問題を引き起こした。TBT (Technical Barriers to Trade) による中国の農産品輸出に対する影響が拡大している。一方、中国と日本の食糧需給関係は、野菜を中心として急速に緊密化している。日系企業は生産拠点や販売市場としての中国を必要とし、中国側も雇用創出・維持、技術力、商品開発力等の面で日系企業に依存している。</p> <p>第4章では、食品安全問題における取組と課題について論じる。食品安全問題に対する中国政府の取組として、2009年に「食品安全法」が決議されたことが挙げられる。食品安全行政の各分野及び食品生産・流通等の各過程での管理が全てこの食品安全法の規定のもとに置かれた。しかしながらその取組は必ずしも期待されたような効果を上げていない。中国の食品安全確保のためには、消費者・政府・企業の三者が三位一体となって機能することが必要である。ところが今の中国では体制的制約から、消費者による企業の監視が適切に行われていない。また賄賂や汚職が蔓延して、政府と企業が癒着している。政府による企業に対する指導、監督の公正性、厳格性にも疑問がある。企業モラルの維持を図り、食品安全を確保するためには、まず行政と企業の分離、公正な検査・監督、適正な社会的監視・報道等が求められる。</p>	